



～ 着任のご挨拶 ～

ながれたともふみ

病理診断科 診療部長 流田 智史



金剛山ー生駒の山並みの麓で仕事をするとは思ってもみませんでした。といいますのは、前の職場(橋本市民病院)に通う電車の窓から行きは左に見、帰りは右にみて良い山並みだなあ、の1日を繰り返していました。私は、信州大学卒業で、(聖路加国際病院(3年間)、大阪大学大学院(博士課程：最後の1年を結核に罹患し、大学での道を断念)、大阪府立病院病理科(5年間)、国立南和歌山病院病理(5年間)、りんくう総合医療センター病理+感染症センター(1年半)、徳洲会八尾病院病理(半年)、宝塚市立病院病理(8年と3ヶ月)、橋本市民病院病理(9年と9ヶ月)のあと、本院の病理に参加することになりました。

私は大学を卒業後ずっと病理をやってきました。その中で、病理医が働くのに何を第一に考えているか？それは、給料。違います。病理医はお金に関して割と鈍いです。多いのに越した事はありませんが。一番は職場環境です。その事を現実に体験しましたので、書かせてもらいます。私が橋本市民病院病理に就職したとき、病理室はなく、狭い技師長の横で標本をみて、染色は検査室の隅っこでやりました。ここに和歌山医大教授、講師がきてみていた、と自慢げに話していたのを思い出します。案の定半年も持ちませんでした。私は前の宝塚市立病院の疲れがでて、もうどうでもええわ、という感じで、8時半ー5時15分の生活を知らん顔で淡々とやりました。この時切り出しは解剖室でした。だんだんと自分の疲れがとれてきて、この病院の初めての常勤医としてキチンとしないとダメ、と思い、特殊染色、免疫染色の機器を買うように、管理者、院長、事務長にいいました。返事はシャンとしませませんでした。

そこで、自分が金にならない特殊染色機を買って寄付するから、免疫染色機は金があるから買ってくれ、といました。私の腹の底では病院で買って当然。診断にどんなに重要であるか、わからないというのは大変です。私自身の貯金から200万をだして特殊染色機を買って寄付しました。免疫染色はリースで買って保険点数で支払っていました、とさっ。今後は検査室とともに遺伝子解析も必要と思われます。

今度は部屋です。1階に空き部屋があり、初めて病理室が出来ましたが、非常に狭く、窓はなく、空調ははいっていましたが追いつきません。換気が悪く臭くてたまらなくなり、まもなく死ぬな、としたりもしました。辞職の日取りを考えながら、管理者に他の場所をお願いしますと、丁度国体の競技が橋本でありICUをつくれ、との話があり、その金で病理室もつくる、と。工事が始まるとその設計士さんが部屋のlayoutについて私共の話をよく聞いてくれました。今回も前回と同様に切り出しのspaceを隔絶したのと、今回は鏡検する部屋と標本作製の部屋を完全分離しました。5.6年間苦勞して作ってもらった部屋にいたのは2年でした。良いことがひとつありました。それは、後継者が一言の誘いで決まったことです。橋本のような田舎病院で病理が続くのは私にとってうれしいことでした。その人物云々は別としてですが。

若草第一病院に常勤病理医が末永く続くために、私の目標は、手洗い場を各部屋の出口につける事をはじめとする環境整備と病理検査の充実です。そうなれば、次か、次の次に優秀な常勤病理医が現れて素晴らしい病理科を達成してくれると確信しています。どうぞ応援よろしくお願いします。

～ 新任医師のご紹介 ～



病理診断科	流田 智史	S54 信州大学卒
小児科	谷本 和哉	H10 大阪市立大学卒
脳神経外科	千田 賢作	H20 兵庫医科大学卒
外科	池側 恭洋	H20 自治医科大学卒
消化器内科	影山 美沙紀	H25 川崎医科大学卒